

第7分科会

小枝達也先生と学ぶ特別支援教育

発達障害の幼児をどのように受け入れるか？ ～その後の成長を見てきた者からのメッセージ～



国立成育医療研究センター副院長

こころの診療部統括部長 小枝 達也 先生

落ち着きがないのは・・・ADHD
一人遊びをするのは・・・ASD
乱暴な行動は・・・ADHD
こだわるのは・・・ASD } とは限らない



- パターン化して子どもを見ない
- 行動の意味を見る
- 園と家庭の違いを理解する

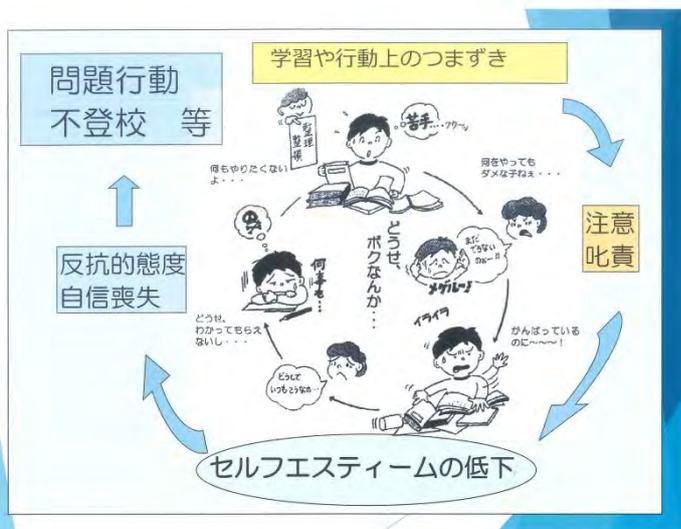
30年前、ちょっと気になる子どもがいると脳に不具合があるのでは、とMBD(微細脳機能障害)だとか、20年前はLD、10年前はADHDなどすぐに診断名がついてしまう傾向があった。しかし、気になる子どもを毎年観察していくと、3分の1は健常児。

何がその子どもたちの将来を決めてしまったのか。

子どもの注意が届く範囲は1mが限界。例えば聞こえていても意識に残らなかったり、集団の中ではどの人に注目し

てよいのか分からなかったりで家庭の姿との違いが生じたりと、物理的、人的要因も考えられる。

子どもにも昨日が有って今日がある事を重視し、パターン化して見ない、行動の意味を見る、園と家庭の違いを理解する事が大切。



就学後、学習や行動上のつまづきから「読み障害」など症状が表れるケースもある。困り感や頑張っているのに上手く行かないと感じている子どもは、自己肯定感=セルフエスティームが低下し、様々な連鎖に繋がっていく。まずは失敗しようが何しようが「あなたが大好き。」と伝えセルフエスティーム⇒人としての根っこの部分を育てる事。

教育は子どもたちが気付かな事、「いいね。これでいいよ。」の部分教え、増やしてあげる事。

「どうせできない。どうせボクなんか。」と思っている子の親の中には出来る事、褒める材料がないから、どう褒めていいのかわからない人も少なくない。親に対してもお迎えの時などちょっと子どもの様子を話すことは大切になる。

- 親は意外と子どもを知らない。
- ましてや、“発達障がい”となるとさっぱり分からない。
- 間違った知識、思い込み、焦り、不安
事実から目を背ける
等身大の我が子が見えない



幼児教育では、客観的に見て、
冷静に親子に対する必要がある

親、親子関係、とりまく環境の要因もある。様々の事を抱えている親子に身近にいて客観的、冷静に見て対応することができる教師の存在は大切。自信を持って！

厚生労働省、健やか親子 21（第2次）には重点課題として、「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援が挙げられている。その要因には、ゆったりとして過ごせる時間がある、いわゆる母親のゆとりがあるかないか。また、育てにくさ、不安から感じているのは、親としてやっているかの不安と焦りから来る不安全感だったり、親子の性格の違い、高齢の母親が増加傾向、地域や世代を超えた世間との広い関係づくりの希薄など、子どもの要因だけでなく、

はずしてはいけない着眼点

- ・ 行動の同調は？
- ・ やり取りが成立しているか？
- ・ 布置が身についているか？
- ・ 自己表現力は？
- ・ 気持ちを現わす言葉は？

保育所/幼稚園でみられる子どもの気になる姿について、はずしてはいけない着眼点は、左図の5項目。

集団の中で同じ動きが出来る同調性、やり取りは受けているだけでは気付かない。こうしてみたら・・・と言ってそれが出来るか、これがやりとり。他者への共感、調整を含めた自己表現力、気持ちを表わす言葉が言えるか？布置とは「これがあってこうなって次はこうです。」といった見通し、形づくり、配置が出来る事。

布置の力

- 言語では「文脈を理解する力」
- 行動では「見通しを持つ力」

布置：広辞苑「物を適当に配置する事。またそのありさま」

布置の力が身につくのは5歳半（年長期）くらい。生活、言語、行動様々な観点において、子ども達にその因果関係を丁寧に丁寧に示す事。

幼稚園教育要領解説本に掲載

序章 第2節

1. 幼児期の特性

また、幼稚園における生活の流れが把握できていないと、幼児は、今目前で起きていることにとらわれ、やりたいことができないとなく、怒るなどの情緒的な反応を示すことがある。幼稚園生活の中で、活動の区切りに教師や友達と共に振り返りの経験を積むことや教師が適切な言葉掛けをすることなどにより、幼児は徐々に過去と今、今と未来の関係に気付くようになり、活動の見通しや、期待が持てるようになっていく。

幼児期の特性については、どんな子どもにとっても大切になる内容である。ADHDには、特に大切。

今はとにかく、ひたむきに一生懸命という特性があることを踏まえて過去、今、未来の見通しが持てる様に支援する。

落ち着きのない子では、 周囲の子を落ち着かせる

周りが盛り上がっていると、天井知らずに盛り上がる
簡単に成果が得られる仕掛け
部屋を片付けておく
予告を重視
集中力をつけるには「その子に合った課題」

集中力をつけるには「その子に合った課題」について

- ・出来て当たり前前の課題内容にすること。
- ・時間をはかり、時間内に出来た事をしっかり褒める。
- ・残った時間は遊んでも良い時間にすること。

ご褒美があることも大切。「やったらいい事がある」という方法が次へとつながり、繰り返しが定着になる。

言葉の遅い子では、絵本の 読み聞かせ

ストーリーの中で、使い方とともに言葉を教える
生活言語 vs 学習言語
「わかる」とは「イメージできる」こと
かける言葉を短めに

・子どもの発達に一番時間を要するのが言語能力。

- ・絵本は文字の少ないもので、ストーリーの流れが分り易い物を選ぶ。(紹介「ぞうくんのさんぽ」)

緘黙の子には、あせらずに場数を 保証する

しゃべらずともその場にいるだけで意味はある
声を出すのは遠い目標
まずは動作で意思表示を



知的な遅れがある子では・・・

- 安全確保が一番大事
- 保護者が子どもを追い込まないように配慮する”できないと駄目“と思いつまませない
- 保育者が保護者を追い込まない
- 保護者が“育てがい”があると感じられるように応援する

- ・安全確保については次の図を参考に。
- ・追い込まない事。
- ・育てがいを感じられるように「今日はこんなことがあったよ。」と保護者の笑顔につながるように子どもの事を伝えていく。

知的な遅れがある子では・・・

危険回避力のチェック・・・危険は6つ

- ・火；片手なべが危ない
- ・水；2歳まではお風呂、幼児は池や川
- ・高所；自分が落下，物を落とす
- ・誤飲；ジュースに見えるお酒
- ・車；駐車場が危ない
- ・ヒト；とにかく目を離さないこと

- ・高所から物を落したことが以前にあった。それをしたらどんな事が起こるのか因果関係が分からず、起こしてしまう行動は回避してほしい。駐車場も要注意。

ユニバーサルな指導のポイント

- ・穏やかに，静かに，近づいて話す
- ・叱らない（ましてや怒鳴らない）
- ・行動のモデル提示をする
- ・指示を減らす
- ・遊びに誘わない
- ・待ち，受けの姿勢が基本
- ・最初のボタンは子どもがかける
- ・来たら，受ける（待たせない）
- ・因果関係を教示する

- ・行動のモデルを掲示することについて

例えばパニックになるのは次に何をしてよいのか、わかりから。次にすることを示し、繰り返し褒めることで子どもはかわってくる。ポイントはとるべき行動のモデルを示し、出来たら褒める事。

- ・分かったことが⇒出来ることに繋がる大切さ。

分かったことを初めはちょっと手伝いすることがあってもだんだん

自分で出来る幅を広げていく。

- ・よき人間関係が指導の前提。子どものプライドを尊重し、満足する日々が子どもを育てる。
- ・幼稚園、保育園等からどんどん情報発信をする事。園ではこんなことをしてるよ、親と共に・・・のスタンスで信頼度を上げて行こう。

講演の後は、現場での困り感に対し、質疑応答の形で先生から解り易くサジェスションをいただくことができました。

質疑応答

Q： 園での姿と家庭での姿が真逆なので、園での姿を伝えても保護者の方に理解してもらえない。信頼関係を崩さないように母親に伝えることが悩みと課題である。

A： お子さんに診断名がついているということは、お母さんにも同じような傾向があることがあり、伝えたことが違ったように捉えられる事はしばしばある。伝わるのは半分以下だと思っておいた方がいい。親子は仲良くあれ、親が必死になって子どもを追い詰めさえしなければ良い。

Q： 2歳児 落ち着きがなくバタバタするので、周りの子も影響されてしまうし、やりとりがうまくできない。保護者の方はなかなか困り感を感じておられないようで、どういうふうにしていったらいいのか困っている。

A： 実は親は気付いていて、言われたくないのが本音です。直接伝えられない場合は園の通信などを使い一般的な子育て方として「夜寝る前に絵本の読み聞かせをしましょう」と紹介するのも一つの方法です。「ストーリーのある絵本を選んで、布団の中で親が腕枕をして、親のペースでめくる。毎晩する。」など具体的に。声をかけても来ないお母さんは、そっとしておいてあげてください。

Q： 年少児 日々の様子を見ていて、支援が必要なのではないかと母親に伝えると、先生の対応が悪い、うちの子に合っていないと言われ、家ではそのような姿は見られませんかと繰り返し言われる。

A： 発達検査をしたから変わるというものではない。その子の日々の過ごし方が少しでも満足いくような工夫をするのがいいと思います。そして、家の人とポジティブなコミュニケーションを取るようにしましょう。先生方は、日々の辛い事に対するコーピング（対処方法）を身に着けるといいですね。ストレスは後ろに逃げて受け止めると重く感じる。ベストのコーピングは、半歩前に出て受け止めることです。「そういうことありますよね」「私、この子受け止めていますからお母さん安心してください」というメッセージを出すとクレームは減ってきます。保育は段取り9割、子ども達は川の流れのようだから登園してから帰るまで川がよどまないように一日のシュミレーションをして保育の準備を徹底させることが大事で、そうすると園が面白くなってくると、母親からのクレームもなくなってきます。



Q： 年長 男児 重度知的障害で、食事は素手で手掴み、虫でも紙でも何でも口に入れてしまうし、急に泣き出したり、走り出したりとか、行動を見ていてもその理由がよめず、何故泣いているのか理解しあげられないので、かわいそうだなあと思いながら過ごしているのが悩みである。

A： かなり重度のお子さんなので、先生が一番にすべき事はお母さんの話し相手になることです。お母さんがまだ障害受容ができていないので、お母さんがこの子を追い詰めないように話し相手になってあげてください。どんな形であっても幸せはあるので、いわゆる「遅れ」があってもそれが何よって言えるぐらいの強いお母さんになってもらうように親のサポートをしてあげてください。この子に対しては危険回避の確認です。「火」「水」「高い所」「誤飲」「車」「人」この六つをこの子の暮らす範囲で点検して危なくないようにして頂きたい。お母さんが、医療機関等でカウンセリングを受けるよりも日常的に先生と話をの方が治療効果が高いです。療育を受けるより日常の中で子ども達が手ごたえを掴んで日々暮らした方が子どもが伸びる。「園の生活の中」で、先生がどれだけ子ども達を受け入れて暮らしやすい

ようにしてあげるか。そして、焦る親の味方になって、焦りをくいとめて、家の中でも穏やかに子育てが楽しめるようにしてあげることがポイントです。

Q：3歳児 男児 言葉に遅れがあり、進級時に、友だちへの噛みつきが頻繁になった。おもちゃの入っている箱をひっくり返すなど、乱暴な様子から周りの子から敬遠されるようになった。その怖い印象をなくすためにはどうしたらいいか悩んでいる。

A：周りの子に対して噛んだり、暴力的な子には、ちょっとの時間でいいので個別的に関わるプログラムを入れるといいです。園全体の体制の中で相談して朝の15分20分でいいので、何かできたらハイタッチ！区切りの度にハイタッチ！そうすると落ち着くし満足度が上がるので、友だちの中に入っても行動が落ち着いてくる。

Q：年中児 男児 3歳児健診の時に多動傾向がみられると言われた。年中になってからは離席も少なくなってきたし、偏食も、食べられるものが増えてきたが、姿勢の保持が難しくなって来て食事中に落ち着かなくなってきた。絵本や紙芝居なども見ずに後ろを向いて友だちをつついたりしている。また、右側の顔を突き出して何でも見るのが気になっていたが、母親も気にしておられ、眼科を受診されたが癖と言われたとのこと。また、家で父親にだけ暴力をふるう事も心配している。

A：絵本の読み聞かせをお家でするようにお伝えください。集中が続かない子には、短い絵本を選ぶのがコツです。単純なんだけど、筋があって、最後、よかったねで終わるやつがいい。アンパンマンなど短いものを親と一緒に見て共感するのは言語発達にいいと思います。親がその中身に入り込んで一緒に共感してやると、子ども達のクオリティーが上がるというのは研究結果に出ているし、親の価値観の伝達にもなる。また、お父さんへの暴力は一過性のものなのでおさまってくる。お父さんとい時間をごせるといいと思います。また、見えにくくて集中が続かないということはなく、集中が悪くなる一番は、「聞こえの悪さ」です。続けて眼科の受診を勧めるといいと思います。

Q：いわゆる発達障害のいろいろな分野において遺伝というのはあるんですか？

A：あります。

Q：小学校に入学する時に特別支援学級に行くことになっていたが、保護者の方が、普通学級を希望され、それ以上介入できず、入学してから苦労しているという話を聞く。どこまで声をかけていいものか。

A：保護者の教育理念に関係してくると手が出ない。気づいた事を正直にお話しし、就学相談までして、その情報は学校に伝わっているのなら園としては100点満点です。

Q：年長児 診断名が二つついた。年々症状が悪化すると言われている。その子は手も出やすいし、暴言も出てこだわりも強い。友だちとの関わりが一切ない子でどう友だち関係を築いていこうか悩んでいる。

A：自閉症に関して言えば、今はちょうどよくても、人と交わる事が増えると、一見、悪くなってみえたりして、いい時と悪い時を繰り返す。この子は、関係性のできる大人とまず遊ぶ。大人との関係を作って、そこに、ものわりのいい子を一人入れて、子どもとの関係を作ってだんだん広げていくといいと思います。

Q：中度の知的障害 トイレも自分で行けず、言葉もほとんど出ない。支援学級でも難しいと言われているが、支援学校には、行くつもりはないようで、どのように導いていったらいいのか

A：どのくらい社会の生活に適応できているかによってみていくので、園ですべき事は、身辺自立のレベルをあげてあげるということにつきます。そして、危険回避を確実にすること。持ち物の管理もできるように。

